15の講義内容　絵本と言語

2007.09.28 ～ 2010.09.15 更新

『エソポの物語』を知っていますか？

キリシタン版『エソポ物語』

「イソップ寓話」、あるいは「イソップ物語」の受容

エソポのハブラス　原文と翻刻　翻刻と類話　COTOBANO YAUARAGUE

古活字板『伊曽保物語』　『伊曾保物語』の資料　福沢諭吉翻訳『童蒙をしへ草』

《日本での出版刊行》

1日本教育文庫・4・訓誡篇下　黒川真道編　黒川真道・小滝淳校　明治43年（昭和51年復刻）。

2十銭文庫。　明治44年

3文明源流叢書・1　早川純三郎編　山田安栄・伊藤千可良・岩橋小弥太校　大正　2年。

4〔複〕稀書複製会叢書・4期　大正7年～昭和17年。

5南蛮文庫。

6近代日本文学大系・1・仮名草子集　笹川種郎解題　昭和3年。

7文禄旧訳・天草本伊曽保物語　新村出校注。

8岩波文庫（天草本）　新村出解説校訂　昭和14年。

9日本古典全書・吉利支丹文学集下　新村出・柊源一校注　昭和35年。

10文禄二年耶蘇会版伊曽保物語　京都大学国語学国文学研究室編　昭和38年。

11日本古典文学大系・90・仮名草子集（古活字版）　森田武解説校注　昭和40年。

12角川文庫（キリシタン版・エソポ物語、古活字本・伊曽保物語）　大塚光信校注　昭和46年。

13〔複〕岩崎文庫貴重本叢刊・近世編・2・仮名草子　東洋文庫・日本古典文学会 編、市古貞次解説　昭和49年。

14〔複〕勉誠社文庫・（13古活字版）　中川芳雄解題　昭和51年。

15〔複〕勉誠社文庫・（3天草版）　福島邦道解説　昭和51年。

16仮名草子集成・（2古活字版）　朝倉治彦編　昭和56年。

17仮名草子集成・（3寛永古活字版・寛永十六年古活字版・万治二年版）　朝倉治彦 編　昭和57年

18邦訳二種伊曽保物語の原典的研究　正編　遠藤潤一著　昭和58年。

19古活字版伊曽保物語・大学古典叢書・7　飯野純英校訂・小堀桂一郎解説　昭和 61年。

20伊曽保物語第二種本の翻刻と本文研究　遠藤潤一著　平成5年。

21岩波文庫（万治絵入本）　武藤禎夫校注　平成12年。

※古典の教科書―近代の道―　鳥と獣の事［エソポ物語］

『伊曾保物語』から『伊曾普物語』へ

雛屋立圃、書名は『伊曾保物語繪巻』三巻

「イソップ」の世界

※戦後～一九九七年四月までに出版されたイソップ寓話一八〇数冊のなかから、「ありときりぎりす」が収められている本一〇七冊の表

「ESOPO」の肖像画

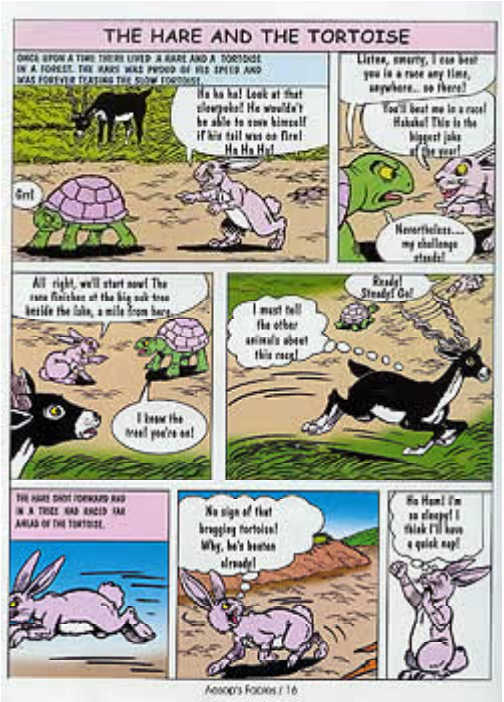
エソポという人物を私たちは実際には知ることが出来ません。ですが、このような人物であったであろうと後世の人たちが彼の人物画を多く描くよう成っていきます。この絵は、まさに彼をこの世に再現させ、具現化した最たるものでしょう。

エソポのファヴラス

《課題１》

この『エソポ物語』の寓話のなかから一編のお話しを選んで、その内容についてご自分が気づいたことをまとめてみましょう。このとき、「ことばの和らげ」にどう表現されているかを比較して確認していきましょう。

「うさぎとかめ」の譚の図絵



『獨和対譯エソップ物語』〔郁文堂書店・大正12年刊〕

龜が足ののろいために兎の嘲笑に逢つた。併し龜は大膽にも兎に向つて競争を挑んだ。兎は自慢のためといふよりはむしろ戯れに其を承知した。競争の日が來て決勝點も定められ、兩者は同一の瞬間にコースにはいつた。龜は緩漫ではあるが一生懸命に這つて行つた。兎は龜に對する嘲弄を極端に行ふことのために、無限に澤山の横飛びをやつて、もう決勝點から數歩の處まで來た時、草の中に轉がつて疲勞のために眠込んでしまつた、して彼が見物人の高い歡呼の聲に目を覺ました時には龜は既に向こふの決勝點の處に居た。此時龜は此方に歸へつて來た、併し兎は面目なげに側路にはいつた、して蘇率直に告白した、私は自分の早さに對する過大な信頼に依つて世界中の最も遲い動物に恥をかゝ

された。　好い頭でも輕卒であればたとひ中庸でも繼續的に勉強するものに屢々追ひつかれる否凌駕せられる。

現代版『イソップ物語』

「イソップ物語―うさぎとかめ」

◇http://www.youtube.com/watch?v=rEjcCqExBP4&feature=related　〔「日本昔話」より〕

◇http://hukumusume.com/douwa/amime/003.html　〔音声〕

この「兎と亀」の話が日本の民話として深く根付いた要因は何だったのでしょうか？遠く山の向こうに見える山頂まで走る競争（かけっこ）が大好きな国民？。亀の鈍足でも最後の最後まで諦めずに目的を遂行する意識が日本人気質としてぴったり調和しているから……。それとも兎のようなどんな重要な取り組みでも中途で休むくらいのゆとりがあり、後からきても決して負けることがないという自負心があるところが……。といった具合に考えれば考えるほど幾つもの要因がこのお話には潜んでいるようです。

絵本に仕立て直してみると、こうしたお話もごくごく自然と身近な物事や出来事に様変わりするから不思議です。このイソップ寓話が斯くも世界的認識を持ち、日本という極東に位置する列嶋にまで辿り着き、かつ私たち日本人の心の奥底にまで届いたことを感謝したい気持ちです。今、絵本は何千何万冊の作品がこの世に刊行され読まれています。まだまだこの世に人という生き物が存在する限り、途方もない数の絵本が生み出されていくことでしょう。

一度は読んでおきたい物語絵本をもし貴方が選ぶとしたら、どんな物語絵本になるのでしょうか？。

江戸時代よりやや前の武士集団＝戦国大名が活躍する時代に、各々大名家の姫君達が輿入れする際に嫁入り本として、制作された書物に「奈良絵本」がありました。物語性の高い作品を専門の絵師が彩色の図絵をもって構成し、読む方のこゝろを夢中にさせた絵による書物の一つです。この「奈良絵

本」は、現存する資料だけでも数千種に及びます。絵にて表現することは、ことば文字で表現する已上に大きなインパクトを読み手に届けていきます。私が最初に眼にした「奈良絵本」は、愛知県名古屋市蓬左文庫が所蔵する奈良絵本『徒然草』でした、この冒頭の絵の光景は、兼好法師が己の草の庵で書き物をしている姿を描き出していました。これは高校の古典教科書の挿絵としても採用されていました。

これらの「奈良絵本」は、『平家物語絵巻』『太平記絵巻』『蒙古襲来絵詞』等の下地を以て編まれた作品でしょう。この「奈良絵本」中の傑作は、『酒呑童子絵巻』でしょうか。源頼光の大江山の鬼退治の、首領の鬼の首を斬るシーンといったものでしょうか……。

絵入り本とあるだけで、読者の関心も様変わりしていきます。さしずめ、現代の社会で云えば、物語やマンガの話内容が映画や動画として表現されたとき、これらの作品はその作風の彩りまでもかえていくことになります。それは、白から青・黄・赤と別な色が混ざり合うことでその本来の作品が有する世界が別角度から見るものとなってそのまなざしが注がれていきます。

ここで実際の作品を何か展開してみましょう。これも日本のお話ではないのですが、よくよく認知している『孫悟空』と云う「さる【猿】」のお話は如何でしょう。三蔵法師という尊い僧侶に随順して震旦の都から天竺まで経典を取りにいくお話です。この三蔵法師は実際に存在した人物で、『三蔵法師傳』という書物が原典です。この三蔵法師に供する異形異能の「孫悟空」の名の下に幾つかのことばを付加して、「…の大冒険」とか「…漫遊記」という名の書物が誕生しました。一番ポピューラな名前が『西遊記』と云います。ですが、日本の仏教説話集には「孫悟空」の話は出てきません。ず

つと後世になってこの話が日本に伝わってきたことが窺えます。

図版は、『畫本西遊全傳』の挿絵

『西遊記』は中国、明の時代（十六世紀後半）に書かれた小説であり、唐の時代（七世紀）にインドへお経を取りに行った高僧玄奘（げんじょう）がモデルになっている。もちろん、孫悟空や猪八戒、沙悟浄は実際に存在したわけではない。唐皇帝太宗の意向で、筆が立つ僧である弁機（べんぎ）が玄奘の口述にもとづいて西域の様子を記した『大唐西域記』と、玄奘の弟子の慧立（えりゅう）と〈げんそう〉が書いた『大唐大慈恩寺三蔵法師伝』がもとになっており、玄奘の旅路が説話となって演劇、小説、詩集などと発展する過程で成立した。〔「西遊記とは…」より〕

伊曾保物語のものがたり

東京　白念坊如電

今度日英博覧會へ出陳しました伊曾保物語の事、先日それに論へました說明書をあげる御約束をしましたが、あれは眞面目に書いたもの面白味が少い、此物語には宮武さん向きの浮世繪に關係の話しがあるですから、天等を主人公として更に御話しをしませう

エ、先年岩谷一六さんの所へ遊びにまわりました時に大卓子の上に太い卷物が三本ありましたから、あれは何ですと聞きましたら、あれは珍品ぢやとちんなさいと云れました から、披いて見ると何んに許らん、伊曾保物語の繪卷物で、其筆者は書畫共に羅屋立圖であつた、是れは珍物ぢや名卷ぢやと賞賞して、何人の所有なりやと問ふたら、貰物だが直段が高いからどうしようかと考へ中だと答へられた、自身も欲しいには欲しかつたが、岩谷君が先口であるのに、其上ねだるしも高いと聞いて急卒に見をさめて、一六さんの所有になつたら重ねて見られると思ひ、さのみは圖拓畫樣にも意を留めなんだ、其後程へて一六先生に或島で御目に懸つた、忘れもしないから、先日の伊曾保の繪卷は御手に入りましたかと聞くと、値が高いから手に負へないで殘念ながら返したと云はれた、此方も殘念であつた、此繪卷は其具後眼にもふれず耳にも入らない誰からの話しも憶へないから、定めし外國人の手に入つたものと思はれる、其時四五百圓奮發して買はなかつたのが此方の落度である そこで伊曾保物語は西洋四大奇書の一で、種々な譬論を作り設けて教誡を示した物語本である、此西洋の原書を日本語に翻譯した人も四洋人である、葡萄牙の耶蘇教師でパヒアンといふ人で、此人は日本に居る事が久しいから日本語に通じ、それで此物語を日本語に譯したのである、葡萄牙四班牙の天主教牧師は天文中より日本に入込み布教に從事してゐて永祿天正に至つては京攝地方にも盛んに布教してゐた、當時は此人々を南蠻人と呼んだもんである。パヒアンは慶後の天草島に建てある天主教會堂に居て、さうして此物語を日本語に反譯したのである、所がそこに面白い話しがある、日本語に反譯をしたが其日本語を書取たのは横文字の羅馬つゞりであつた、横文字よめぬ日本人には矢張西洋の原書同然である、おもしろいぢやありませんか

又そこで此書の翻譯成稿は文祿元年で豐太閤が朝鮮征伐の年である、其翌年（西暦一五九三）天草の教會で横文字で出版されたのである、同時に平家物語を文句其儘に羅馬つゞりの横文字本に出版された、此両書は我國では見ない樣だが會津の圖書館にある、羅道公使が購ひ去られた者で待賢堂の印が押してある、逢磨屋の蔵本である、逢磨屋とは江戸四日市の有名なる珍書本屋で本姓名は岩本五一で戲號を花之舍蛙鳳と云つた、明治元年五十餘歳で亡くなつた今の二三屋は其後である

この横文字で書いてある翻譯伊曾保物語を更に眞字假字に書替たのは、何人だか夫はわからない、然し年代は慶長五年以後に相違ないと思ふ、其子細は豐公が九州征伐の後南蠻人は天草長崎など限りで其他の土地に住る事を禁じてより十年餘り、國内諸國には南蠻人の跡は絶つたと云つても宜しいのである、所がこの慶長五年に英吉利の商人と和蘭の商人とが同船で泉州堺浦に乘込で通商交易をしたいと申入れた、此時は關原合戰の後で天下の政權は東照公が提つたほや〳〵である、そこで東照公から關東へ來い相談して見ようと云はれ、英國両商人は江戸に赴き全く通商が本意で耶蘇教組なしであるから東照公も其儘ゐを許した

サアかうなると人氣は如なるもんで四洋に向ふ、此時分は歐羅巴の事を奥南蠻と云つた、カモナンパンと間違ちやいけないよ、南蠻人の本國だからオクナンパンと云ふのであるそこで此時の人にも奥南蠻の風俗をアノコノと日にするハイカラが、オット此時代にはハイカラとは云ふまい、利口な連中は四洋の事實を聞取學問で話しかけるが大層な流行と見らるゝ、其機に付込み早く見て取た人が、伊曾保の横文字を竪文字に書なほして日本人だれでもかれでも讀める樣にしたのであるらしい

異人が反譯伊曾保物語は京都の公家衆の手に成たものであると云ふ、或ひは然らん、さすれば鳥丸光廣卿などのハイカラ公家、オット又出たが此人の才覺ではやりさうな事である、堺の浦には此時代羅馬字つゞり位よめる洋學者も既に出來たであらう

板本は京都で慶長活版があるに相違ないと思ふが、見た事は勿論で聞いた事もない、大槻文庫の蔵本は刊行年月は無いが、慥かに元和活字と見らるべき者である、舊主伊達伯爵家の御蔵本であつたのを拜領したのである、藩邸の書物又そこで此書の翻譯成稿は文祿元年で豐太閤が朝鮮征伐の年である、其翌年（西暦一五九三）天草の教會で横文字で出版されたのである、同時に平家物語を文句其儘に羅馬つゞりの横文字本に出版された、此両書は我國では見ない樣だが會津の圖書館にある、羅道公使が購ひ去られた者で待賢堂の印が押してある、逢磨屋の蔵本である、逢磨屋とは江戸四日市の有名なる珍書本屋で本姓名は岩本五一で戲號を花之舍蛙鳳と云つた、明治元年五十餘歳で亡くなつた今の二三屋は其後である

この横文字で書いてある翻譯伊曾保物語を更に眞字假字に書替たのは、何人だか夫はわからない、然し年代は慶長五年以後に相違ないと思ふ、其子細は豐公が九州征伐の後南蠻人は天草長崎など限りで其他の土地に住る事を禁じてより十年餘り、國内諸國には南蠻人の跡は絶つたと云つても宜しいのである、所がこの慶長五年に英吉利の商人と和蘭の商人とが同船で泉州堺浦に乘込で通商交易をしたいと申入れた、此時は關原合戰の後で天下の政權は東照公が提つたほや〳〵である、そこで東照公から關東へ來い相談して見ようと云はれ、英國両商人は江戸に赴き全く通商が本意で耶蘇教組なしであるから東照公も其儘ゐを許した

サアかうなると人氣は如なるもんで四洋に向ふ、此時分は歐羅巴の事を奥南蠻と云つた、カモナンパンと間違ちやいけないよ、南蠻人の本國だからオクナンパンと云ふのであるそこで此時の人にも奥南蠻の風俗をアノコノと日にするハイカラが、オット此時代にはハイカラとは云ふまい、利口な連中は四洋の事實を聞取學問で話しかけるが大層な流行と見らるゝ、其機に付込み早く見て取た人が、伊曾保の横文字を竪文字に書なほして日本人だれでもかれでも讀める樣にしたのであるらしい

異人が反譯伊曾保物語は京都の公家衆の手に成たものであると云ふ、或ひは然らん、さすれば鳥丸光廣卿などのハイカラ公家、オット又出たが此人の才覺ではやりさうな事である、堺の浦には此時代羅馬字つゞり位よめる洋學者も既に出來たであらう

板本は京都で慶長活版があるに相違ないと思ふが、見た事は勿論で聞いた事もない、大槻文庫の蔵本は刊行年月は無いが、慥かに元和活字と見らるべき者である、舊主伊達伯爵家の御蔵本であつたのを拜領したのである、藩邸の書物であつたが、一昨年先人聲溪が三十年祭のをり上野の美術倶會で家蔵器物の展覽會を三日間開いた、此書を初め阿蘭陀書の翻譯にかゝる者凡そ五百種を陳列した、其時何人かの眼に止つて居たと見ね、今度日英博覽會に出品したいが借して〳〵と事務所から申込があつたので、承諾してオマケに上野の圖書館にもある、高等師範學校にもあると注意して遣つたら、夫れ〳〵交渉があつて三通り揃へて英國へ出す事になつたのである

此三通りの書物は共に上中下に分册して上卷に二十條、中卷に四十條、下卷に三十四條通計九十四條で御伽草子の樣な譬へ話しである、高等師範の本は寛永十六年四月の奥付がある嵯峨版の活字である、友人秋山恒太郎君が同版の者を所持してゐる、帝國圖書館にも同種の本があるが奥付の刊行年月が缺けてる、夫れから萬治二年正月出版の繪入伊曾保物語がある、書林伊藤三右衛門の署名がある整版で活版で無い、師範校にも圖書館にも各壹部を所蔵されてる、此繪入の本は此他にも往々眼にふれる

そこでだ、此繪入の圖案が最初いつた立圖の繪卷から來たのでは無いかと思ふんです、畫風は固より全然相違してるんですが、其圖案は立圖と光廣卿と二人で擬らした意匠であるかも知れない、すれば立圖の繪卷物が出來て其圖に因て伊藤三右衛門が普通の畫工にかゝせ挿圖にして彫刻させたと見てもよからうと考へるのです

萬治二年は立圖は六十歳で存生中です、夫から伊藤は京都か江戸か其處までまだ取調べをして置きません。此外にも話せばまだあるが大概にして置きます

因みに一言申したいのは此伊曾保と同例の書物がある、葡萄牙の天文書を歸化人澤野忠庵が日本語に反譯してヤハリ横文字で書留めた、通詞四吉兵衛が讀んで儒者の向井元昇が竪文字に改めた、明暦中長崎であつた事です、向井が支那說を取て殿撃を加へ乾坤弾說と題してある、此書は珍本以上の珍本で稀有といつてよいもの家蔵には御座ります

＊　＊　＊

もう一度、イソップの寓話に眼を向けて見ましょう。このお話も、室町時代以降の戦国大名が天下を収めようと諍いの絶えなかった時代を終焉する織田信長の時代に南蠻の宣教師がもたらした物語だったのです。これは日本語に翻訳され、ポルトガル式ローマ字で表記され、日本の天草学林でグーテンベルクの印刷機械によって印刷されたものです。これらの書物を天草本、切支丹本と呼称されました。ですが、時代は当に変動期そのものであり、これらのキリスト教の教えを政治的に排除する時代が訪れ、これらの書物も焚書と化したのです。こうした動きのなかで国外に持ち出された数冊が今日西欧の国々の図書館に保存されていて、再び陽の目を見ました。その一つがこの天草版『伊曾保物語』だったのです。この物語は、日本人の書き手である雛屋立圃によって『伊曾保物語絵巻』に仕立てられ、明治四〇年代まで日本にその存在が知られていて、この書物を最後に見た人物が大槻如傳という人でした。彼はこれを見て買い求めようとしたのですが、当時の金額でいえば一家の財政をもっても買えない代物でした。とうとう何人の手（外国人）にかに渡ってしまい、この世から姿を消して久しい書物となりました。

ですが、この雛屋立圃の手になる『伊曾保物語絵巻』を版木に刻み、出版した書物として、国字本『伊曾保物語』が今日まで、本邦に遺っています。この中間に位置する立圃の絵巻があれば、その文化交流の足跡をつなぎ止める架け橋にもなりましょう。実際、現存する大英博物館が所蔵する天草版『伊曾保物語』と国字本『伊曾保物語』を比較展示する催しがイギリス大英博物館で企画されたことがありました。

この『伊曾保物語』という書物が先か、それとも『西遊記』が先か、ご自身で日本渡航の二つの譚をご自身で調べてみてはいかがでしょうか。どちらも絵本仕立てとして、既に江戸時代には刊行されています。